

平和・協同・自然のひろば

「らいてうの家」の会ニユース



米田会長

ついに「らいてうの家」ができあがりしました！「生誕百二十年」オープンを夢みて走った一千日マラソン、ゴールインの喜びをご支援くださったみなさまへの感謝とともに報告いたします。

この冬は近年にない大雪でした。本体工事はどうにか間に合ったものの、ストーブ取り付け工事は吹雪で一時的に止、ドアが凍りついたこともあります。でも敷地内の雪には、夜のうちにやってきましたシカキツネらしい足跡がのこ

り、朝は無数の小鳥たちがえさをあさる姿もみえて、「冬も来たい」と思っていました。そして雪が消え、壁もドアも雨戸もすべて木製の「木に包まれた」あたたかな家が全容をみせました。何千人の方がたのご寄付と、設計・施工・木材調達・電気工事など建築関係者の努力の結晶です。展示ケースや椅子なども、県産のカラマツを使い、安曇野の工房で製作中。まだ整っていない部分もありますが、予定どおり五月二十八日正午オープンセレモニーをおこないます。

その後は「十一月までは毎週末開館(冬企画は別途)」「管理者としてNPOから毎週交通費・宿泊費自己負担で出向く」「現地らいてうの会も協力」で運営し、らいてう講座などの学習会、キノコづくりや森のめぐみ講座、お琴演奏やお茶会、読み聞かせや座禅会、ステンドグラスのライトアップ、植樹、作品展示などを実施します。らいてう遺愛の文机をはじめ、遺品や写真の展示もご期待を。

光熱費や通信費、セキュリティ、メンテナンスの費用(年額約二百万円を予定)は、訪問された方に(入場料の代わりに)「維持費」の寄付をお願いしたいと思いますが、それでは足りないので「維持会費」を募るほかありません。各イベントの経費も必要です。「らいてう基金」をつくって引き続きご寄付を受けたいと思います。らいてうに代わってあなた自身の「野の花、野の鳥と親しむ」スペースとして自然の中でらいてうを感じてくださいませんか？

困難はありますが、らいてうに学んでまっすぐに前を向き、たくさんの方の夢を乗せて「らいてうの家」を船出させましょう。「平和・協同・自然のひろば」めぐらしてー。(会長 米田佐代子)

「らいてうの家」5月28日オープン!

らいてう生誕百二十年をめざした建設が実現して

「らいてうの家」完成報告のつどい

二月四日、らいてう生誕百二十年記念「らいてうの家」完成報告のつどいが東京・四谷の主婦会館プラザエフで行われました。

主催者挨拶として副会長の中 寫邦さんは、多くの方がたのご援助で「家」ができたことに深く感謝するとともに世界平和を望んだらいてうの思いを今こそより一層広げなければと訴えました。そして一九二一年に発足した日本婦人平和協会が戦後再発し、一九五一年六月十五日に発行した機関誌『婦人と平和』第一巻第一号の巻頭に、らいてうが寄せた「一つの世界え」の一節を紹介しました。

「家」建設募金よびかけ人である日本女子大学元学長の青木生子さんからは、らいてうが『青鞥』『創刊の辞』で「烈



中 寫 邦さん

しく欲求することは事実を産む最も確実な真原因である」と述べた言葉通り、「家」の建設が実現して嬉しく思うとのご挨拶をいただきました。

中央設計の永橋為成さんからは、全国の熱い思いを形にするという難しい仕事を見事にやりとげた九人の女性建築士の努力、地元の方がたの協力、そして建築主である「らいてうの会」の力、この三



羽田澄子さん

つがそろって「家」ができたが、建築の完成したこれからが始まりで、維持し発展することを期待するとの言葉をいただきました。

乾杯の挨拶は、らいてうの記録映画を



祝辞をのべる現代女性文化研究所の岡田孝子さん

つくられた羽田澄子監督。「家」はらいてうを懐しむ場所ではなく、自分たちがらいてうのように生きる場として生かし、新しい運動が生まれてくる拠点にしましょうと訴えました。

会長の米田佐代子さんは、「らいてう再発見——今こそ『平和・協同・自然』の理想を」と題して講演。自然を愛し、



女性たちの奮闘を称える中央設計の永橋為成さん

命は自然そのものという発想は、らいてうの平和観につながり、らいてうの理想は世界平和だった。らいてうの志を受け継ぎ、信州の自然の山の中で「家」を大事に育てて行きたいと語りました。続いてビデオ「二〇〇六年、今始まる『らいてうの家』——『平和・協同・自然』のひろば」が上映され、建設運動の始まりから完成までの様子が映し出されました。

楽しい歓談の後は会場から次々と発言がありました。日本女子大学学長の後藤祥子さんは「会場には大勢のらいてうさんがいる」と語り、「らいてうの記録映画を上映する会」の斉藤令子さんは次の世代にらいてうの志を伝えるために一緒に頑張りたいと話されました。また、丸岡秀子の記録映画を制作中の根本銀二さん、プラザエフの中村紀伊さん、お義母様が女子大でらいてうと同級生だった大河内昭子さん、小林登美枝さんの次女で作曲家の竹下南さん、「真田らいてうの会」の花岡静枝さんら多くの方々からお祝いと励ましの言葉をいただきました。

(理事 飯村しのぶ)

「森のめぐみ」連続講座

第1回 4月23日(日) 朝10時現地集合

「家」の周囲の整地と庭づくり

4月24日(月) 10時～12時

「家」でキノコづくりのつどい

講師のお話とキノコのこまうち

☆参加費 2000円

第2回 5月27日(土) 朝10時現地集合

「森のめぐみ」の学習

「らいてうの森」植樹

「私の木」を植えませんか

第3回 8月27日(日) 予定

第4回 10月22日(日) 予定

今年度もコモンズを申請

昨春秋におこなった草刈りや植樹に関連した支援申請から、今年度は「森のめぐみ」に関する学習講座などを企画し、引きつづき「コモンズ支援金」の申請をすることにしました。三月二日にヒヤリングがおこなわれました。

らいてう生誕百二十年

らいてうの家完成記念

らいてう忌の俳句募集

内容 りいてう忌や平塚らいてうを詠う
 選者 大石悦子 黒田杏子 正木ゆう子
 募集期間 5月1日～8月31日
 投句先 俳句羅(ら)の会

松本市深志3-8-2

飯島ユキ方

☎0263(32)2206

☆投句者全員に入選句掲載の冊子進呈

シリーズ
らいてうの周辺

らいてうに「雷鳥之図」を送る

高野重三

一九二〇年三月、新婦人協会発会式で高野重三（一八六六一—一九三二）がらいてうに「雷鳥之図」を送ったことは、らいてうも自伝などに書いており、よく知られている。高野はらいてうのこの運動に期待し、発会式では祝辞を述べ、寄付もしている。

彼は著書「婦人問題早わかり」の序文で、以前は男性の立場から女性のことを考えていたが、今は女性の立場に立つて女性問題を考えるようになったと書いています。「婦人問題早わかり」は「婦人問題」に連載した「婦人問題早わかり」とシユライナーの「婦人と労働」の抄訳を付して一九一四年に出版された。

麻生正蔵、下田次郎、宮田脩らとともに婦人問題研究会の幹事となり、機関誌

「婦人問題」の編集委員になっている。

彼自身は「婦人問題」への寄稿は少ないが、娘の寺田初代がシユライナーの「アフリカ農園物語」の一部の翻訳を載せ、高野はそのはしがきを書いている。その他、「新真婦人」にアメリカの社会学者レスター・ウォードの「女性中心説」を連載している。これはらいてうも「文章世界」（二九一六）に載せている。

高野は欧米の女性情報を紹介するほか、女性解放反対説に反論する形で女性問題を論じている。女性には自覚覚醒を、男性には固陋な態度を改めるよう促している。彼は「婦人問題の根本義」（『第三帝国』）で女性問題の「終点」を「女子も亦男子同様自由なる個性を發暢し豊富完全なる生活を送り又社会の公人としては其活動努力向上によりて国家並に人類の進運に資しなければならぬ」としている。高野は石油販売などの事業家であったが、婦人新聞社の福島は「学者風であり、教育家風であり」と書いている。らいてうは「その態度がいかに真面目で、率直」と彼を評している。

（らいてう研究会 清水和美）

〔事務局日誌〕

- 1月11日 真田町で故小林登美枝蔵書の分別作業
- 1月19日 記録映画を上映する会理事会
- 1月25日 第10回理事会
- 2月3日 「家」企画委員会
- 2月4日 りいてう生誕120年「家」完成報告のつどい
- 2月8日 真田町に小林蔵書を一部寄贈
- 2月11日 第1回平塚らいてう賞の贈賞式（於・日本女子大学）
- 2月13日 「家」にペレットストーブ備え付け完了
- 2月17日 「家」企画委員会
- 2月24日 丸岡秀子の映画で「家」撮影
- 2月28日 第11回理事会
- 3月9日 記録映画を上映する会理事会
- 3月19日 婦民60周年のつどいに参加
- 3月22日 農林中金長野支店からのペレットストーブ寄贈式

〔第7回総会のご案内〕

日時 4月22日（土）1時30分より
会場 東京ウイメンズプラザ視聴覚室

☎03(5467)1711

☆正会員の皆様はご出席ねがいます